

平成28年度 伝えたい阿蘇の農業遺産資源の保全・継承策(記入例)

1 実施団体・農業遺産資源名

(1) 団体名	みさお大豆保存会(仮名)
(2) 資源名	みさお大豆

2 現状と課題

<p>○栽培状況 H26年度まで、「みさお大豆」を栽培している生産者はいなかったが(家庭菜園で栽培している方は数名いた)、H27年度に地域の住民4人が高原農業研究所より「みさお大豆」の種に分譲を受け、平成27年から栽培を開始(4名で5a程度)。しかし、鳥獣害被害や栽培技術面の問題から、収量は少なかった。</p> <p>○教育での活用 高森中央小学校で授業の一環で栽培に取り組んでいる(JA阿蘇青壮年部高森支部が手伝い)。また、栽培した「みさお大豆」でみそ造りを行い食育に活用されている。</p>
--

3 目指す姿(5~10年後を目安に)

<p>①「みさお大豆」の栽培面積拡大、収量向上することで収益性の向上。 ②「みさお大豆」を使った加工品を作ることで地域の特産物とする。 ③地域の行事等で「みさお大豆」が使われるようになる。 →「みさお大豆」が地域で欠かせない作物として確立</p>

4 目指す姿に向けた取組方策

<p>1. 「みさお大豆」の収量向上 栽培方法の見直し及び栽培学習会等の開催による栽培技術向上により、収量向上を図る。</p> <p>2. 鳥獣害対策強化 鳥獣害対策に関する勉強会等の開催、柵の設置等の鳥獣害対策を行う。</p> <p>3. 加工品等の開発による収益確保及び新たな食文化の形成 「みさお大豆」は、小粒であるため、納豆豆としての需要があり、納豆等の加工品開発により、収益向上を図る。 「みさお大豆」を日常生活や冠婚葬祭等で使用することで、地域の食文化として根付かせることで、栽培継承を図る。</p> <p>4. 次世代への継承 現在、高森中央小学校で食育の一環として行われている「みさお大豆」栽培を継続させる。</p> <p>5. 種の保存 栽培者による自家採取の継続。また、万一に備え、有識者による種の保存方法指導による種の恒久的な保存方法を検討する。</p>
--

5 取組方策の実施体制

※主体的に取組む団体等を必ず記入してください。

<p>○保全活動取組主体:みさお大豆保存会(「みさお大豆」生産者(5名))</p> <p>①地元との連携 各地域の集まりで、みさお大豆栽培を呼びかけ、地域で取組む。</p> <p>②行政等との連携 大豆の栽培指導や各種補助等について行政等からアドバイスを受けながら取組む。</p>
--